

APWSS 随想

昨年、静岡県植物調節研究会で第9回APWSSについて話題提供があり、10数年前第4回会議に参加した時のことを懐しく思い出した。私にとって海外の事は種々印象深かったが、特にオーストラリアのナランデラ水稻高収量地帯の10a当り17俵の広大な水田の中に立った時の驚きは忘れられない。品種はカルロスで見違えるように素直な草姿であった。悲しい性で私はすぐそのイネを調べた。答は単純であった。条播畦幅が約半分(18cm)で単位面積穂数は倍以上となり、バス中数えた1穂粒数は95内外で良稔であった。単純計算でも静岡の倍の収量は容易にうなづけた。また、株元に首を突込んだ時、1～2の除草剤の1回処理だというのにはほとんど雑草をみなかった。500ha経営(家族5人)内60haの水田である。牧草－イネームギ(1部飼料作)の乳牛、次に羊の放牧を入れた輪作と、購入水の注意深い徹底した水管理。大農経営人の厳しい合理性の一端をみた思いであった。また、ニュージーランド、ロトルアの林業試験場における種苗の除草剤展示圃でも、立札に使用剤名、薬量の他に必要金額が書かれ比較されており、抑草の種類と必要程度を自ら経営的に選択する農家の姿勢がうかがわれ、示唆に富んでいた。わが国農家も次第に規模拡大され、取つき易い作業能率で生産性を高めてきているが、安定した大規模経営のために、経過変遷を含め、まだまだ先進海外に学ぶことが多いのではなかろうか。今年の第10回会議にも多数参加し、見聞を広げることを期待したい。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
東 海 支 部 長 宮田喜次郎〕

目 次 (第19巻第3号)

水稻作用除草剤の適正使用について……2

＜農業研究センター 宮原益次＞

は し が き……………2

I. 除草剤の選定……………2

II. 適確な使用法の実施……………8

む す び……………9

熊本県における湛水土壤中直播栽培

について……………9

＜熊本県農政部農産課 坂井定義＞

1. は じ め に……………9

2. 湛水直播栽培の経緯……………10

3. 湛水土壤中直播栽培技術の開
発とその特徴……………11

4. 主要技術の成果の概要……………11

5. 湛水土壤中直播栽培の普及状
況について……………12

6. 今後の普及動向について……………13

世界の農耕地雑草とその調査研究(6)

——ゴマノハグサ科(3)——……………15

＜宇都宮大学 竹松哲夫・一前宣正＞

民間研究所めぐり

・石原産業株式会社中央研究所……………34

新除草・調節剤

・ユニコナゾール液剤……………35

植調協会だより……………36